2022 WINTER
アメリカ大豆輸出協会
PRESENTS

Soy Oil Newsletter

Latest information about soy oil

NO.16
第16号

Topic News

アメリカの植物ベース食品トレンドの行方は?

2022年2月にイプソス社が行ったオンライン世論調査によると、世界31ヵ国の成人の3分の2が気候変動を懸念していると答えました。しかし、植物ベースの食品が環境にやさしいと提示されてもビーフバーガーの方を選ぶと答えた方が多く、肉を豆などの代替品に置き換えたりする可能性が高いと答えたのは44%でした。このような風潮を打ち消す決議が、10月18日にカリフォルニア州ロサンゼルス市議会で「植物ベース条約」として決議されました。同州はアメリカ最大の酪農産業州ですが、現状の危機を防ぐことを重要視した結果となったことで、今後植物性食品の利点についてキャンペーンを奨励していくことにしており、大豆たんぱく質の利用が期待されています。今後の行方はいかに?

「植物ベース条約」が後押しする植物性食品の今後に期待ね♪

なにやらぼくたちの初期の渡米には歴史上のあの人が関係してるみたいだよ!

第16回 ちょっとお豆な豆知識

アメリカに渡った初期の大豆

大豆は今から5000年前に中国、日本、韓国など東アジアの一角に生まれ、その後は長期に亘りこの地域から持ち出されることはありませんでした。中国から初めて日本に大豆が持ち込まれたのは、明治時代半ばだと推定されています。それ以外で、個人的に大豆を中国や日本から海外に持ち出した記録はいくつか見られますが、そのひとつに前年に続いて1854年に来航したペリー提督が日米和親条約を調印して帰国する時に、日本から大豆を持ち帰っています。その大豆はアメリカの農業委員会(現在の農務省)に提出しており、その時に大豆のことを"Soja bean"と書いています。この大豆種子はアメリカの農民に配布され、農業委員会からその栽培報告書が出されています。

ペリーとともにわれわれがアメリカに渡っておったとは感慨深いのオ。

第16回 Soy Oilなお話「ソイオイル誕生物語 その6」

第一次世界大戦で欧州の大豆産業が壊滅状態になったことにより、日本で需要がなかったソイオイルの輸出が盛んになり、我が国の大豆搾油産業が大きく成長しました。しかし、大戦の終結に伴って再びソイオイル需要が停滞します。国内で必要としていたのは、農業用肥料としての脱脂大豆だったのです。ところが大正12年9月に起こった関東大震災で、関東地方にあった多くの搾油事業所が操業できなくなり、油脂が枯渇するようになります。この時に関東から離れている静岡県の清水で操業していた大型大豆搾油工場に脚光が集まりました。清水港からソイオイルを積んだ船が東京湾に入ってきた時に歓呼の声で迎えられ、ここで初めてソイオイルが我が国の食用油脂として登場することになるのです。

ついに、我が国でソイオイルが食用油として登場!!しかし、関東大震災がきっかけとなってたなんてびっくりだね。

報告事項

ソイオイルマイスター2022 オンライン表彰式

アメリカ大豆輸出協会(USSEC)は9月2日に、「第6回ソイオイルマイスター検定」の合格者が参加する「2022ソイオイルマイスター表彰式」をオンラインで開催し、新たなソイオイルマイスターが誕生しました。今回の検定には50名の方が受験されました。今年も新型コロナウイルスの影響でオンライン受験となりましたが、マイスターが40名、マイスタープロが3名合格されました。これでマイスターとマイスタープロの累計合格者数は478名となりました。合格されたみなさまには、これからSDGsの観点からますます重要になっていくと考えるソイオイルの未来を築くための大切なアンバサダー役を担っていただき、ソイオイルのさらなる発展のために尽力していただくことを願っています。

USSEC U.S. SOYBEAN EXPORT COUNCIL
発行 アメリカ大豆輸出協会
TEL 03-6205-4971 http://ussoybean.jp/
●アメリカ大豆サステナビリティ http://sustainablesoy.jp/
●ソイオイルマイスター検定 http://ussoybean.jp/soyoilmaster/
●本部ホームページ http://ussec.org/
協力
株式会社エービーシースタイル
https://abc-style.co.jp/